令和５年４月１８日に６年生が実施した全国学力状況調査の分析結果について報告します。

「国語の調査結果にみられる特徴と現状分析」

国語の正答率に関しては、全国平均を０．８ポイント（県平均は１ポイント）上回っている。観点ごとに分析すると、「話すこと・聞くこと」に関する項目は全国平均より、３．４ポイント上回っているが、「書くこと」に関する項目は、１２．１ポイント下回っており、「読むこと」に関する項目は全国平均と同程度である。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項（言葉の語彙力等）」は全国平均を０．３ポイント上回っている。
今年度（令和５年度）本校は、国語の研究８年目（新しい研究主題は１年目）となり、研究主題「自分で見通しを持って楽しみながら読む力の育成」に迫る取り組みを行っている。読む力においては全国平均と変わらない正答率であるので読む力の定着を図ることができている。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項の正答率は年々上がってきており、語彙力が豊かになりつつある。しかしながら、書く力を高めていく指導の充実は重要と考えられる。国語に限らず、全教科において自分の考えや学習の振り返りを書く活動を今後も継続して取り組んでいく必要がある。

「算数の調査結果にみられる特徴と現状分析」

算数の正答率に関しては、全国平均を０．５ポイント（県平均は１ポイント）上回っている。観点ごとに分析するとおおむね全国平均と同程度かそれ以上の数値となっている。
令和３年度から同様に「数量の関係を捉え、正しく立式したり、計算結果を基に問題場面を振り返ったりすることができるようにする指導の充実」を継続していくことが重要と考えられる。

「児童質問紙回答結果にみられる特徴と現状分析」

規則正しい生活習慣を意識して生活している児童の割合が非常に高く、学習する習慣を意識したり、身につけたりしている児童の割合も高くなっていて、令和３年度から比較しても年々、生活習慣や学習習慣に関する項目の数値が高くなっている。また、読書やタブレットを使った学習、授業内における学習の取り組みにおける習慣においても全国的に見て高い割合となっている。
しかしながら、苦手な学習に対する関心・意欲の低下から、各教科の学習に対する関心等の回答が全国平均と比べて若干低い数値となっているため、まず、児童の意欲を高め、苦手意識を克服していく学習指導の充実が重要である。また、授業の中で学習問題やまとめを自分の言葉で書いたり、学習の振り返りの時間を確保したりすることで、児童１人１人の主体的な学びにつなげていく指導が大切であることがわかった。本校でも引き続き、日々の授業構成及び授業改善から確かな学力の育成を図っていく。